

【御池沼沢植物群落の歴史】



「西坂部村下海老原村平尾村野論裁許絵図」個人蔵 写真提供・四日市市立博物館

上の絵図は、元禄2年（1690）に起きた、西坂部村と下海老原村、平尾村の土地争いの裁判の時に作られた裁許絵図の写しです。次頁の写真は、昭和23年（1948）4月に撮影された御池沼沢植物群落周辺の航空写真です。

絵図では、現在の御池沼沢植物群落および周囲の水田が、『大池』という池として描かれています。絵図と写真とを見比べると、『大池』の範囲は、戦後まで地形や地境として残っていたことがわかります。東部指定地の南や東のラインや、東部指定地と西部指定地をつないでいた水路、河岸段丘の下端ラインが絵図と写真とよく対応していることがわかります。



この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである
(承認番号 平29部複、第21号)

また、『大池』の南西角は、河岸段丘に沿って、西部指定地の南端よりさらに南に延びていた様子も写真からは読み取れます。

さらに、絵図では、『大池』の水域は東西に分かれるように描かれており、池の中央部はどちらかといえば水が深くない場所であったことが推測されます。このように水域が分布していたため、東部指定地と西部指定地の間の部分が水田化され、現在の御池沼沢植物群落の指定地が残されたと思われます。

【東部指定地で見られる植物】

ミスギボウシ
(ユリ科)

日当たりのよい水際の溝や湿地に自生する多年草。高さ 50 cm ほどの花茎（かけい）の先に紫色の花を数個つける。



ナガボノアカ
ワレモコウ
(バラ科)

湿地に生える多年草。花は枝の先につき、長い穂状で垂れる。葉には三角形の荒い鋸歯がある。



ミミカキグサ
(タヌキモ科)

湿地に生育する食虫植物で、地下茎や葉に捕虫囊をつけ、プランクトンを捕まえる。花は黄色く、長さ 6~8mm のへら形の地上葉をつける。実の形が耳かきに似ている。



ヤマラッキョウ
(ユリ科)

秋に、茎の先に紅紫色の花を球状に咲かせる。鱗茎は小さく味もよくない。



クロミノニシゴリ
(ハイノキ科)

東海、近畿地方の湿地に生える落葉低木。別名シロサワフタギともいう。白色の小さい花を多数つけ、秋に黒色の実をつける。



ハナショウブ
(アヤメ科)

湿地や草地に生える多年草で、ハナショウブの原種。花びらの基部に黄色い筋が入るのが特徴である。



ホソバリンドウ
(リンドウ科)

湿地に生える多年草。葉がリンドウよりも細い。



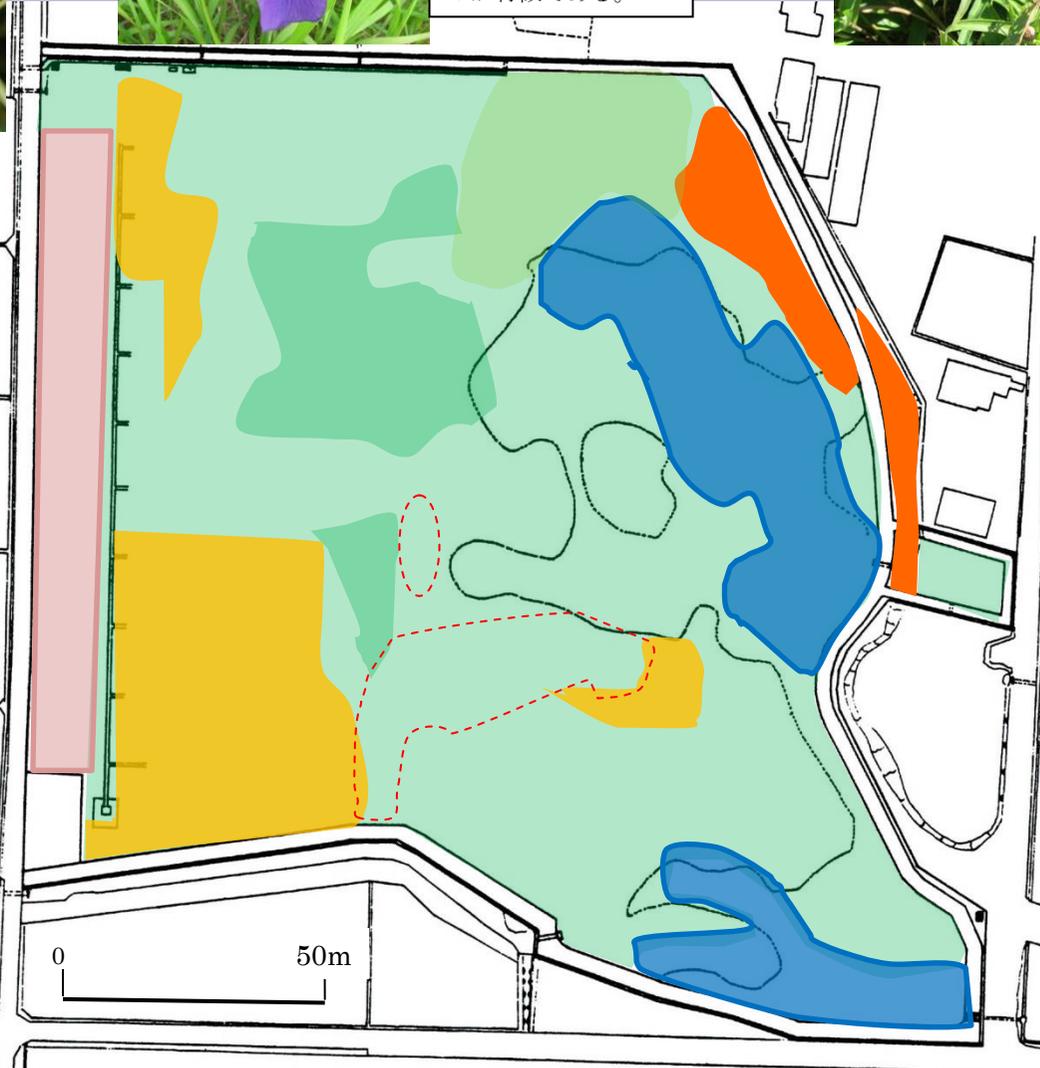
ミクリガヤ
(カヤツリグサ科)

暖地性の植物で、御池沼沢が日本の生育の北限とされている。多年草で、栗のイガのような花を2個から5個つける。



トウカイコモウセンゴケ
(モウセンゴケ科)

中部から近畿地方の日当たりのよい酸性の湿地に生える食虫植物で、葉の一面に生えた長い毛から甘い香りのする粘液を出し、虫をおびき寄せ捕まえる。ピンク色の花を咲かせる。



ノギラン
(ラン科)

日当たりのよい草原に生える多年草。緑色を帯びた小さい花を穂状に多数つける。



<凡例>

- : 中間湿原
- : 低層湿原
- : その他の湿原
- : 草原
- : 低木及び亜高木林 (点線は伐採済み)
- : 水面
- : 植生回復実験中 (H25~)